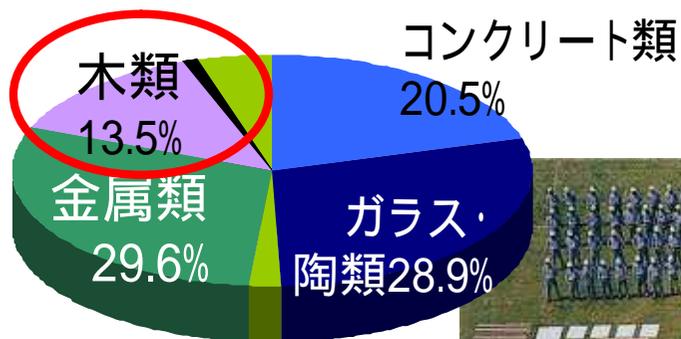




積水ハウスの木材調達方針

2007年12月4日
違法伐採対策推進国際セミナー2007 in 横浜

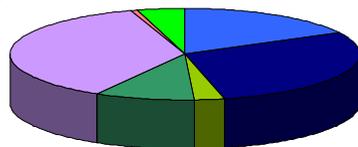
弊社住宅の資源使用量



総量 約42t
(約150㎡の標準的な当社軽量鉄骨造住宅、建物のみ)

参考: シャーウッド
(木質系)

木類
約36.6%

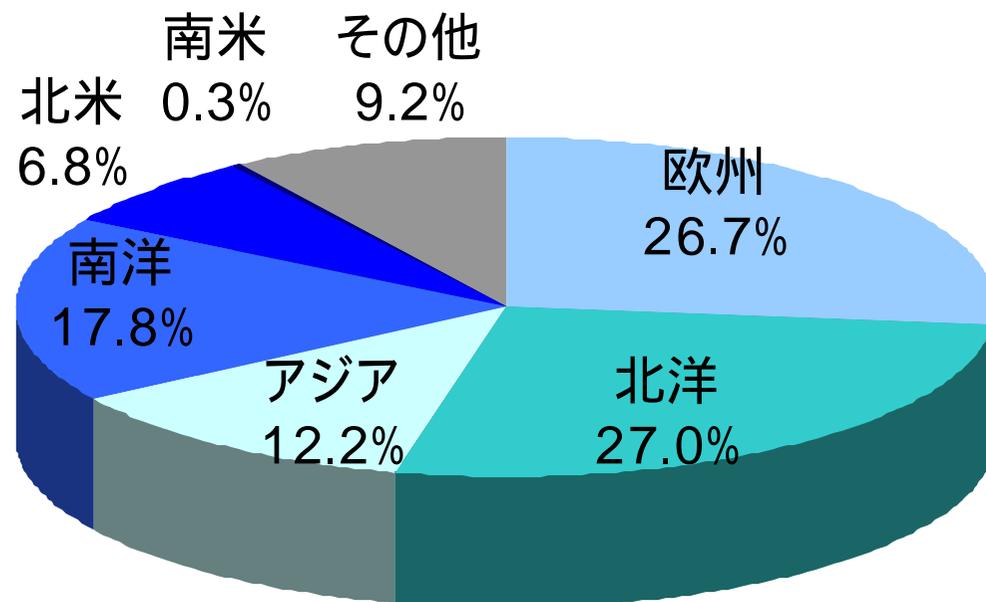


取引メーカー約3,000社の協力を得て
1棟あたりの約6万点の部材で構成されています。

木材調達の現状(地域別の調達割合)



ガイドライン策定にあたり、2005年度以降、主要な木材取り扱いメーカー約60社に対して、調達に関する実態調査を実施。



総量 387,997m³

(2006年2月～2007年1月)

【主な調査項目】

各設備の部材レベルで...

- 樹種
- 植林木か、その状況
- 原産地(地域・国・地区)
- 最終輸出国
- 年間出荷量
- 年間購入量
- 認証材か
- CoC認証の有無
- 合法性証明の有無・種類 etc.

グリーン購入法の基本方針の改定(2006年4月)

政府機関が調達する木材・木材製品(紙や文具など含む)の原料は、**合法性が証明されたもの**でなければならない。**持続可能性は配慮事項に**

- 対象:紙類、文具類、製材、合板等、机など機器類
- 証明方法:①森林認証を活用②業界団体の認定を受けた事業者が証明③事業者独自の取り組みによる

- ・木材の合法性を政府調達方針に加えたことは、違法伐採対策としては大きな前進。
- ・持続可能性が配慮事項に留まった点については改善の余地有り。

「サステナブル宣言」に基づくガイドラインの策定



「サステナブル宣言」は、「未来への責任」を意識して事業に取り組むことで、持続可能な社会の実現に寄与しようという当社の社会的なコミットメント。

『積水ハウスは持続可能な社会の実現に貢献するため、「持続可能性」を企業活動の基軸に据え、環境・社会・住まい手・経済のバランスを考慮した経営を行います』

(2005年4月21日 記者発表より)



積水ハウスのビジョン

持続可能な社会とは、地球生態系本来のバランスを基本とし、将来にわたってすべての人々が快適に暮らせる社会のこと。積水ハウスはお客様にご満足いただける住まいの提供を通じて持続可能な社会の構築に寄与するとともに、その社会の中で暮らしの提供をリードしつづける「住環境創造企業」をめざします。

合法性に留まらず、4つの価値から考えた「持続可能性」を向上させる。

... 木材の違法伐採による森林破壊等狭義の環境面だけでなく、「生態系の保全」や、違法伐採によってもたらされる「地元住民の暮らしや社会的な影響」まで、配慮した持続可能性の高い評価軸を保持。

ガイドラインの客観性、透明性と実現性を両立させる。

... 第三者(木材についての環境NGO等)との情報交流を基に、世界標準の考え方をベースとした、客観的にもレベルの高い内容を目指した。

... 社内では開発、調達、生産、環境部門で構成される部署横断的な組織体で検討やサプライヤーに対する実態調査を実施し、実現可能性も考慮した。

➡ サプライヤーとの協働関係、啓発によるサプライチェーンへの影響力を意識

➡ 木材についての環境NGOとの連携(FoE Japan)

違法伐採の可能性が低い地域から産出された木材

貴重な生態系が形成されている地域以外から産出された木材

地域の生態系を大きく破壊する、天然林の大伐採が行われている地域以外から産出された木材

絶滅が危惧されている樹種以外の木材

消費地との距離がより近い地域から産出された木材

木材に関する紛争や対立がある地域以外から産出された木材

森林の回復速度を超えない計画的な伐採が行われている地域から産出された木材

国産木材

自然生態系の保全や創出につながるような方法により植林された木材

木廃材を原料とした木質建材

1.住宅を構成する当社指定部材の中で、製材品など木そのもので構成されるもの

2.住宅を構成する当社指定部材の中で木材の使用割合が多いもの

- ・キッチン、内装建具、収納、洗面化粧台、和室造作材
- ・上記以外で木材の重量割合が部材全重量の50%以上を占める部材

- これ以外にも現地の事業所が独自に調達する現地調達の内装部材なども若干存在するが、プライオリティの高い上記を第一ステップとして管理を進め、これらが一定の成果を挙げた段階で残りの部分についても対応を進める予定である。

調達レベルの評価方法



調達指針毎の評価点の合計によって、木材の調達レベルを評価

調達指針	配点
	1～5点
	1、3、5点
	1、3、5点
	1～5点
	1～5点
	1、3、5点
	1、3、5点
	1～3点
	1、3、5点
	木廃材のみの評価

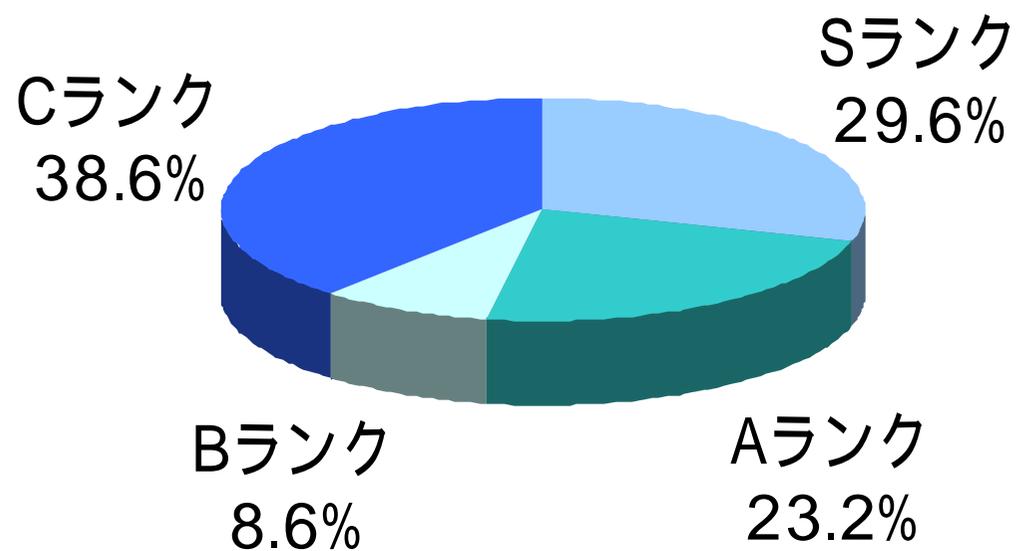


合計点(最大43点)	調達ランク
34点以上	S
26点以上、34点未満	A
17点以上、26点未満	B
調達指針、が 評価できない、 もしくは17点未満	C

< ランク設定の意図 >

各調達指針の評点の合計によってランクが決まるため、特定の調達指針に固執することなく、柔軟性を持ちながら調達レベルを向上させることが可能。木材の安定供給にも寄与。

2006年度(06.2～07.1)の調達実績



総量 387,997m³

1.最低限の合法性の確保

- ・「調達指針 違法伐採の可能性が低い地域から産出された木材」の評価が1点
- ・伐採場所が不明のため、調達指針 の評価ができない



- 輸出国の輸出許可証、伐採許可証など合法性を確認できる書類の提出
- 調達ルートを遡って、伐採場所の再調査を依頼

【参考】

「調達指針 違法伐採の可能性が低い地域から産出された木材」の評価が1点

ガボン、リベリア、インドネシア、カンボジア、ブラジル・アマゾン、ペルー、エクアドルなど

2.絶滅危惧種の保全

- ・「調達指針 絶滅が危惧されている樹種以外の木材」の評価が2点以下
- ・樹種が不明のため、調達指針 の評価ができない



- 代替樹種への設計変更を検討
- 調達ルートを遡って、樹種の再調査を依頼

【参考】 「調達指針 絶滅が危惧されている樹種以外の木材」の評価が2点以下

分類	国	樹種
南洋材広葉樹	インドネシア、ミャンマー、マレーシア	メルサワ、パロサピス
	インドネシア、フィリピン	クルイン、アビトン
	インドネシア、マレーシア	カプール、カポール、レッドメランチ、レッドラワン、イエローメランチ、セランガンバツ

ガイドライン付録に掲載されていない樹種に関してはその度問合せ

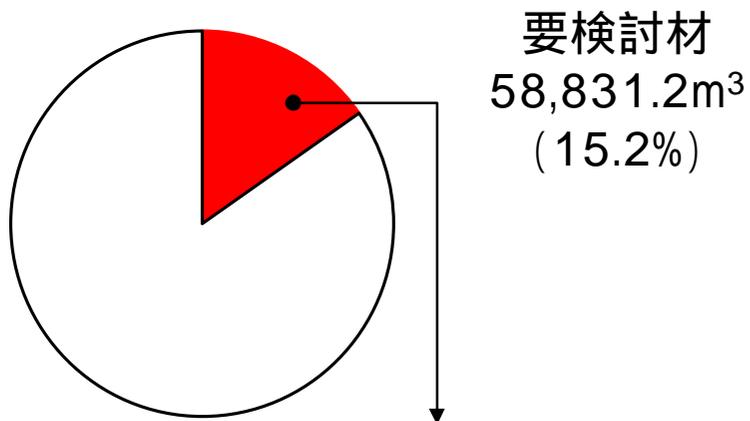
3. サプライヤーに対する働きかけ

- ・調達ランクCの調達量や調達割合が多いサプライヤー



木材に対する意識啓発も含めた個別要請

ガイドライン不適合木材の現状



調達総量(56期)
387,996.7m³

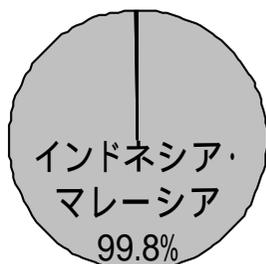
要検討材内訳

調達指針	調達量 [m3]	全調達量に対する 容積割合[%]
情報不足により 合法性と 絶滅危惧の評価不能	10,839.8	2.8
合法性	35,015.4	9.0
絶滅危惧種	41,820.4	10.8

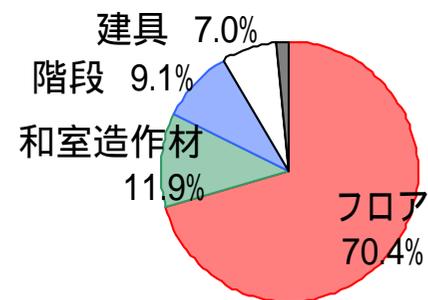
ガイドライン不適合木材の現状 2



合法性の評価が1点

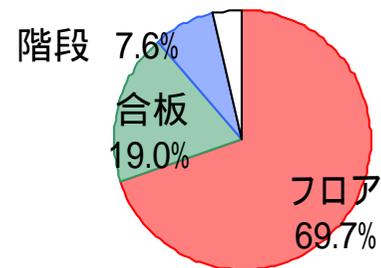
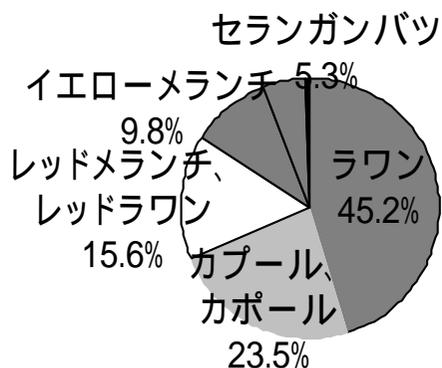


インドネシア・マレーシアという回答の時はインドネシア産として評価(マレーシアからの調達材は最低基準にかからない)。



部位別

絶滅危惧の評価が2点以下



部位別

フロア材のインドネシア産ラワン材が当面の課題

サプライチェーンとの連携...具体的取組例



フロア材の脱ラワンを目指し、フロア材メーカーに対し、代替樹種の検討を依頼。利用可能性を協働で検証していく。

各社から代替樹種の提案あり



提案例)

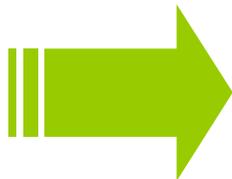
インドネシア産ラワン材

タスマニア産ユーカリ (PEFC認証材)



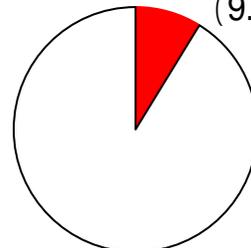
各社の提案内容や実施時期、フロア材全体の方向性を検討した上で、タイムスケジュールを策定

...こうした改善の結果、
調達レベルの向上が進めば



調達総量は2006年度と同じ
387,996.7m³

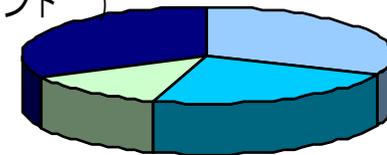
要検討材
34,738.9m³
(9.0%)



改善後の予測

C 32.4%
(6ポイント)

S 31.6%
(2ポイント)



1.トレーサビリティの精度向上

「伐採地までのトレーサビリティ」と「業務への負担軽減」を両立させるために精度の高いトレーサビリティを確保するシステムが必要

2.認証材の増加

認証材であれば、地域や樹種によらず調達可能としている。認証材が増加すれば、その中で針葉樹と広葉樹など、樹木の特性を活かした木材調達が可能になる。

消費者への啓発活動

「木材の合法性」は、消費者にとって、自分の選択が及ぼす影響を実感しにくい傾向にある。



消費者に対する「木材」利用に関する意識啓発のためのコミュニケーションツール(積水ハウス)



消費者に対する直接的なインセンティブ

「木材の合法性」は消費者にとって選択の直接的なインセンティブ、メリットが見えにくいいため、助成制度等の制度的なインセンティブが必要。



ご清聴、ありがとうございました。

【本件に対する問い合わせ先】

積水ハウス 環境推進部

Tel. 06-6440-3374

佐々木 m-sasaki@ga.sekisuihouse.co.jp

木戸 k-kido@ga.sekisuihouse.co.jp